

奄美大島名瀬市における郷友会の実態

田 島 康 弘

(1994年10月17日 受理)

The Actual Conditions of Immigrant's Voluntary Associations in Naze City, Kagoshima Prefecture

Yasuhiro TAJIMA

| 目次 | 頁 |
|------------------------|----|
| 第1章 研究目的 | 11 |
| 第2章 郷友会の成立と活動 | 12 |
| 第1節 郷友会の成立 | 12 |
| 第2節 郷友会の活動 | 15 |
| 第3章 会員の居住・職業、郷里との関係 | 20 |
| 第1節 居住と職業 | 20 |
| 第2節 会と郷里との関係 | 21 |
| 第4章 郷友会の諸問題 | 25 |
| 第1節 会運営上の留意点 | 25 |
| 第2節 若い世代(2・3世)への対策 | 25 |
| 第3節 会と選挙との関係 | 25 |
| 第5章 郷友会の今日的意義—むすびにかえて— | 27 |

第1章 研究目的

本稿は、鹿児島県名瀬市において形成されている郷友会の実態を明らかにし、その果たしている機能や現代社会の中で持つ意義等について検討しようとするものである。

郷友会や県人会など出郷者が主に都市部において形成する会への関心は、近年ますます広がっており¹⁾、アジアや欧米にも、次第にその目が向けられるようになってきている²⁾。それは、こうした現象の基礎条件とも言える移住現象が、国内的にも国際的にも著しいからであり、とくに、近年におけるアジア人の日本への流入現象が、以上のような関心の増大の背景にあるのかも知れない。

出身地を同じくする者の結合、こうした人と人との結合状態³⁾が、現代社会において一定の役割を果たしていることは、その大小の差はあろうとも確かであり、その力の原因や強弱の検討が課題の1つであろう。この問題はそれぞれの社会の特質とも関連するかも知れず、とすると、この研究はそれぞれの社会の特質の研究ともなろう。また、こうした郷友会の成立が移動という広がりや空

間性を含む社会現象であることから、地理学とりわけ社会地理学が取り組むべき研究対象の1つであるとも言えよう。

ところで、郷友会の研究は、一方では本土の社会を対象として一定の研究が行われ、他方、沖縄社会を対象とした石原の研究⁴⁾などもあるが、奄美を対象とした研究はそれほど多くない。奄美出身者の郷友会を対象としたものは、瀬戸内町西阿室の出身者の会を対象とした田島忠篤⁵⁾、小島清志⁶⁾の研究や鹿児島における奄美出身者の会を対象とした川崎の研究⁷⁾、関西の徳之島出身者を対象とした拙稿⁸⁾などがあるが、奄美内部で成立している会についての全体的な報告は皆無である。

一般に、奄美と沖縄は、南島という言葉の下に同質のものとして扱われる傾向が強いようで、たしかに、奄美の郷友会は沖縄のそれと似てはいるが、異なる点も少なくなく、この点についても本報告で多少は明らかにされるであろう。

次に、名瀬市に存在する郷友会の実態を捉えるために、筆者は次の3段階の方法をとった。

まず、名瀬市で発行されている「南海日日新聞」の広告らんに注目し、1987年9月から1988年11月までに掲載された各郷友会の広告から判明する各郷友会名、会長名のすべてを拾いあげた。こうして拾いあげられた郷友会数は79にのぼった。これらの広告の内容は、各郷友会が主催する八月踊り、運動会、敬老会や、集落の方で行われる集落豊年祭、豊年相撲大会など、会から会員に知らせる諸行事の案内の他、告別式の通知なども少なくなかった。なお、これらの広告の掲載は9月から11月頃に多く、この時期に会の行事のヤマがあることが伺えた。ちなみに、1987年をとると、9月39件、10月34件、11月15件であり、このうち、最も多い8月踊りの「お知らせ」は、9月20件、10月21件であった。

以上から、活動している会の様子がある程度わかり、また、各郷友会の会長の氏名がわかったので、これを手掛りにして各会長の住所（および電話番号）を電話帳で調べ、「郷友会に関するアンケート」を各会長宛に郵送した。これが第2段階で、79通郵送し、後に述べる筆者自身の直接面接によるアンケート用紙への記入や回収も含め59部の回収を得た。しかしながら、筆者が直接面接したうちの4部を、都合で集計に加えることができなかったため、最終的な整理は55部（69.6%）によって行われている。

最後に、アンケートのより多くの回収とより詳細なききとり調査とを兼ねて、現地名瀬市で主要な郷友会の会長氏や関係者に面接して、お話を伺った。また、市役所や知人の情報から、各集落単位の郷友会の市町村レベルの連合体が組織されていることを知り、これについても追究した。笠利町、竜郷町、大和村の連合体の会長氏には面接し得たが、宇検村の郷友会の連合体については活動停止状態にあり、住用村のそれも1度集まったことがある程度ということでなきに等しい状況であった。また、現在名瀬市に編入されている旧三方郡の各集落郷友会でも連合体は作られておらず、これ以外の町村では連合体は存在していないということだった。

以下、アンケートの整理を中心に、ききとりによって得られた情報などをも加味して、名瀬市における郷友会の諸特質についてみていきたい。

第2章 郷友会の成立と活動

第1節 郷友会の成立

1. 戦後の会の成立

名瀬市の郷友会は、少くとも戦後については戦後間もない時期にかなりの会が成立した（第2-1表）。この点をアンケートにより、さらに具体的にみよう。

「戦後奄美は米軍の統治下であり、外地からの引揚げ者も多く、郷里に帰っても職がなく、本土とは交通が断絶していたため、名瀬に出れば何らかの職につけると集中して来ました。そうした中で、気のおけない同じ方言で話せる仲間が自

然発生的に集る機会を作り、郷友会の形になったものと思います」（笠利町大笠利）。

「戦後の荒廃した中で、数少ない同郷出身者が身を寄せ合うように、郷里での『もちもらい』を市内で実現、郷里に想いをはせ、親睦と連帯感を味わい、自己をなぐさめ、満足していたようです」（竜郷町安木屋場）。

「名瀬市でも戦後の困窮、生活苦は厳しく、同胞の相通る者同士、生活のための情報交換、励まし合い、相互共助の目的から発足した」（喜界町上嘉鉄）。

以上のように、戦後の経済的苦況の中で、とくに精神的な「心の寄り処」を求めて郷友会は発足したようである。

7割の会が1950年代末までに成立しているが、その後発足した会もあり、とくに、1970年代前半頃にもう1つの小さなピークがみられる。また、地域的には大島北部の会の結成が早く、南部の会の結成はおくれている。

なお、アンケートによれば、15の会で戦前に発足した⁹⁾としており、戦後の会のルーツは戦前にさかのぼることができると言えよう。ただ、これらはみな戦時中に中断しており、また、「同郷人の集まりはあったが、郷友会という名前はなかったのでは？」¹⁰⁾との意見もある。

成立時の会の規模は、全体の4分の3が100世帯以下、50世帯以下も半数近くあり、さらに25人以下が4分の1もあって小さなものであった（第2-2表）。

第2-1表 郷友会の成立年

| 成立年 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 戦前 | 3 | 4 | 1 | 1 | 2 | | 4 | 15 | |
| 1946～50 | 5 | 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | 33.3 |
| 51～55 | 2 | 1 | 2 | | 2 | | 1 | 8 | 17.8 |
| 56～60 | 2 | 1 | 4 | 1 | | 1 | | 9 | 20.0 |
| 61～65 | | | | | 2 | | | 2 | 4.4 |
| 66～70 | | | | | 2 | | | 2 | 4.4 |
| 71～75 | 1 | 1 | | 3 | | | | 5 | 11.1 |
| 76～80 | 1 | | | 2 | | | | 3 | 6.7 |
| 81～85 | | | | | | | | | |
| 86～ | | | 1 | | | | | 1 | 2.2 |
| 計 | 11 | 7 | 9 | 7 | 7 | 2 | 2 | 45 | 100.0 |
| 不明 | 2 | 2 | | 1 | | 1 | 4 | 10 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注1) 記号は次の略である。K：笠利町，T：竜郷町，N：名瀬市，S：住用村，Y：大和村，U：宇検村，他：その他。

また、その他の6の内訳は、徳之島町の集落の郷友会が4、喜界町の集落の郷友会が1、それに与論町の郷友会が1である。

2. 会の整備と会員

第2-2表 成立時における会の規模

| 次に、会の成立に関連して | 世帯数 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------------|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 会の目的、会の整備・充実、 | 25以下 | 4 | 2 | 1 | | 3 | 1 | | 11 | 25.6 |
| 会員等についてみておこう。 | 26～50 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 10 | 23.3 |
| 1) 会の目的 | 51～100 | 4 | 2 | 3 | 3 | | | | 12 | 27.9 |
| 会則の目的に掲げられてい | 101～150 | 1 | 2 | 1 | | | | 1 | 5 | 11.6 |
| る目的の内容を単純に整理す | 151～200 | | | 1 | 1 | 1 | | | 3 | 7.0 |
| ると、ほとんどすべての会で | 201～250 | 1 | | | | 1 | | | 2 | 4.7 |
| 「親睦」をあげていること、 | 計 | 11 | 7 | 8 | 6 | 7 | 2 | 2 | 43 | 100.0 |
| 次いで、「郷里の発展への寄 | 不 明 | 2 | 2 | 1 | 2 | | 1 | 4 | 12 | |
| 与」(75%),「郷土愛の高揚」 | 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注) 151以上の規模の大きなものは成立年が新しいものが多い。すなわち有屋 '58, 川内 '72, 大棚 '70, 赤木名 '60, 国直 '46で国直以外はその成立が新しい。

(69%),「相互扶助」(58%),「伝統文化の保存・継承」(46%)などとなっていて、郷里との関係が重視されているように感じられなくもない。(第2-3表)。

2) 会の整備・充実

発足後の会の動きを、ここでは①会則の制定年、②会旗の製作年を指標としてみよう。

各郷友会が会則を制定した時期は、1950年代から60年代前半にかけて(50%)と70年代(29%)とに集中しており、会の成立と比べてかなりのずれがある(第2-4表)。このことは、会の結成当時には余裕がなく、その後しばらくしてから、次第に組織を整えていったことを示すものと思われる。なお、現在でも会則のない会が4つあることも注目される。

会旗の製作は1970年代が最大(45%)で、60年代がこれについており(24%)、会則よりも更におくれていると言えよう(第2-5表)。これも会の整備・充実の一環として捉えられよう。

3) 現在の会員数と組織率

現在の会の規模を会員数でみると、51～150世帯の会が62%と最も多く、151～200世帯も少なく

第2-3表 会の目的

| 目 的 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|--------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 親睦 | 13 | 7 | 8 | 6 | 6 | 3 | 4 | 47 | 97.9 |
| 郷里の発展への寄与 | 10 | 7 | 8 | 4 | 3 | 2 | 2 | 36 | 75.0 |
| 郷土愛の高揚 | 9 | 6 | 5 | 5 | 4 | 2 | 2 | 33 | 68.8 |
| 相互扶助 | 8 | 5 | 6 | 3 | 5 | | 1 | 28 | 58.3 |
| 伝統文化の保存・継承 | 5 | 4 | 4 | 2 | 3 | 2 | 1 | 21 | 43.8 |
| 生活・社会的地位の向上 | 4 | 2 | 1 | | 3 | | 1 | 11 | 22.9 |
| 青少年の健全な指導・育成 | 1 | 3 | 1 | 2 | 3 | | | 10 | 20.8 |
| その他 | | | 1 | 1 | | | | 2 | 4.2 |
| 回答した会の数 | 13 | 7 | 9 | 6 | 6 | 3 | 4 | 48 | 100.0 |

注) その他は長寿慰安及び郷里との交流であった。

第2-4表 会則の制定年

| 制定年 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 戦前 | | | | | 1 | | | 1 | 2.6 |
| 1946～50 | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 | 7.9 |
| 51～55 | 4 | | | | 2 | | 1 | 7 | 18.4 |
| 56～60 | 1 | 1 | 4 | | | | 1 | 7 | 18.4 |
| 61～65 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 5 | 13.2 |
| 66～70 | 1 | | | | 1 | | | 2 | 5.3 |
| 71～75 | 1 | | 1 | 3 | | | | 5 | 13.2 |
| 76～80 | 3 | 1 | 1 | | | 1 | | 6 | 15.8 |
| 81～85 | | | | | | 1 | | 1 | 2.6 |
| 86～ | | | 1 | | | | | 1 | 2.6 |
| 計 | 12 | 4 | 9 | 4 | 5 | 2 | 2 | 38 | 100.0 |
| 会則なし | 1 | 2 | | | 1 | | | 4 | |
| 不明 | | 3 | | 4 | 1 | 1 | 4 | 13 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

ない(第2-6表)。また、規模の大きな会は大島北部に多い傾向もみられる。

次に、名瀬在住の総出郷世帯のうちの会員世帯の割合をみると、8割以上を組織している会が73%を占め、組織率はかなり高いと言うことができよう(第2-7表)。一般に、名瀬市の市街地に近い集落で、組織率が低いようである。

第2節 郷友会の活動

まず、どのような活動がどの程度行われているかという会活動の全体像を把握し、次に、会の内部集団等についてみたあとで、最後に、これらの活動を支える財政面について検討する。郷里との交流も名瀬の郷友会の主要な活動の一部であるが、これについては別に扱いたい。

1. 会の諸活動

まず、総会がほとんどすべての会で行われているが、これを除くと、「敬老会」「八月踊り」「運動会」が多く、会の主要な行事となっており、中でも、収穫後の祭りの時に踊られる奄美独特の「八月踊り」が、名瀬の郷友会の中心行事となっている(第2-8表)。毎年9月から10月にかけて、市内各地の公園などで、各単位郷友会の主催により「八月踊り」が行われるが、1回だけではなく2回3回と日をあらためて行う会も少なくない。

総会を行う時期は、10～11月が4割、1～2月が3割で、これらの時期に多いが、4～5月に行う会も15%程あり、必ずしも一定していない。敬老会は、総会のとくにあわせて行う会が多いが独立して行う会も7つ(13%)ある。

第2-5表 会旗の製作年

| 製作年 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 戦前 | | 1 | | | 2 | | | 3 | 10.3 |
| 1946～50 | 1 | | | | | | | 1 | 3.4 |
| 51～55 | 1 | 1 | | | | | | 2 | 6.9 |
| 56～60 | 1 | | 1 | | | | | 2 | 6.9 |
| 61～65 | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | 4 | 13.8 |
| 66～70 | | | | 1 | 1 | | 1 | 3 | 10.3 |
| 71～75 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | | 10 | 34.5 |
| 76～80 | 2 | | | | | 1 | | 3 | 10.3 |
| 81～85 | | | | | | | | | |
| 86～ | | | | | | 1 | | 1 | 3.4 |
| 計 | 9 | 4 | 3 | 3 | 5 | 3 | 2 | 29 | 100.0 |
| 会旗なし | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | | 2 | 17 | |
| 不明 | 1 | 1 | 1 | 4 | | | 2 | 9 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | | 3 | 6 | 55 | |

第2-6表 現在の会員数(世帯)

| 世帯数 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 50以下 | | | | 1 | 2 | 1 | 1 | 5 | 10.0 |
| 51~100 | 3 | 3 | 3 | 2 | | 2 | 2 | 15 | 30.0 |
| 101~150 | 4 | 3 | 4 | 1 | 2 | | 2 | 16 | 32.0 |
| 151~200 | 3 | | 1 | | 2 | | 1 | 7 | 14.0 |
| 201~250 | 1 | 2 | | 1 | 1 | | | 5 | 10.0 |
| 251~300 | 1 | 1 | | | | | | 2 | 4.0 |
| 計 | 12 | 9 | 8 | 5 | 7 | 3 | 6 | 50 | 100.0 |
| 不明 | 1 | | 1 | 3 | | | | 5 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |
| | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

第2-7表 各郷友会の組織率

| 組織率 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 100% | 1 | | | | 1 | | 3 | 5 | 11.1 |
| 90~ | 3 | 5 | 1 | 1 | 1 | | | 11 | 24.4 |
| 80~ | 6 | 1 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | 17 | 37.8 |
| 70~ | | 3 | 1 | | | | | 4 | 8.9 |
| 60~ | 1 | | 2 | | 1 | 1 | | 5 | 11.1 |
| 50~ | 1 | | | | | | | 1 | 2.2 |
| 40~ | | | | | 1 | | | 1 | 2.2 |
| 30~ | | | 1 | | | | | 1 | 2.2 |
| 計 | 12 | 9 | 6 | 4 | 7 | 2 | 5 | 45 | 100.0 |
| 不明 | 1 | | 3 | 4 | | 1 | 1 | 10 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |
| | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

運動会を行える会は強力な会であるが、これも3分の2以上の会で行われており、10~11月に行う会が全体の4分の3を占める。

このほか、ソフトボールやバレーボールが青年部を中心に行われているが、相撲がこれに劣らず盛んであることが奄美の特色の1つであり、その時期は9月が多い。

また、8月のお盆を中心に開催される奄美まつりに、郷友会（またはその青年部）として参加する会も半数近くあり、奄美まつりの主要行事である「八月踊り」や「舟こぎ競争」の主体となっている¹¹⁾。

さらに、行事とはやや性格を異にするが、慶弔見舞、とくに弔の見舞については、ほとんどの会がこれを行っている。

2. 会の内部集団とその活動

1) 内部集団の状況

6割の会で青年部および婦人部が組織されており、とくに青年部は会の実動部隊として重要な役割を担っている（第2-9表）。このほか壮年部（20%）、八月踊部（15%）、模合集団（13%）などが作られている会もある。

次に、これらの部や集団が設立された時期をみると、青年部、婦人部ともに70年代以降に組織されたケースが多く、新たな世代への一定の重心の移動が行われたと見ることができよう（第2-10表）。これに対し、模合集団はより早くから作られていたが、これについては後に詳しくみる。

2) 伝統芸能保存の努力

八月踊部を組織している会もあることに示されているように、八月踊りの保存に努力している会は半数以上にのぼる（第2-11表）。このほか、種下し、平瀬まんかいなどを保存の対象としている

第2-8表 会の諸活動(行事)

| 行 事 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 総会 | 13 | 9 | 9 | 7 | 7 | 3 | 6 | 54 | 98.2 |
| 敬老会 | 12 | 9 | 8 | 6 | 5 | 3 | 6 | 49 | 89.1 |
| 八月踊り | 11 | 9 | 9 | 6 | 5 | 3 | 1 | 44 | 80.0 |
| 運動会 | 8 | 7 | 6 | 5 | 5 | 3 | 3 | 37 | 67.3 |
| 奄美祭り行事への参加 | 7 | 5 | 6 | 1 | 3 | 2 | 2 | 26 | 47.3 |
| 忘年会 | 6 | 5 | 4 | 2 | 4 | | | 21 | 38.2 |
| 新年会 | 2 | 3 | 1 | 3 | 2 | | 4 | 15 | 27.3 |
| 野球・ソフトボール | 5 | 4 | 1 | 2 | 4 | | 1 | 17 | 30.9 |
| バレーボール | 2 | 2 | | 2 | 2 | | | 8 | 14.5 |
| 相撲 | 4 | 6 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 15 | 27.3 |
| レクリエーション | 5 | 1 | 3 | 1 | 4 | | 1 | 15 | 27.3 |
| 旅行 | 2 | | | | | | | 2 | 3.6 |
| 慶弔見舞 | 12 | 9 | 7 | 5 | 4 | 3 | 5 | 45 | 81.8 |
| 回答した会の数 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | 100.0 |

第2-9表 会の内部集団

| 内部集団 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|--------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 青年部 ¹⁾ | 9 | 6 | 5 | 6 | 4 | 2 | 1 | 33 | 60.0 |
| 婦人部 | 7 | 6 | 3 | 5 | 7 | 2 | 3 | 33 | 60.0 |
| 壮年部 | 2 | 3 | 1 | 2 | 2 | 1 | | 11 | 20.0 |
| 八月踊部 | 3 | 3 | 1 | 1 | | | | 8 | 14.5 |
| 模合集団 ²⁾ | 1 | 1 | 2 | | | | 3 | 7 | 12.7 |
| 居住地集団 | 2 | | | | 1 | | | 3 | 5.5 |
| その他 ³⁾ | | | | | 1 | | | 1 | 1.8 |
| 郷友会数 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | 100.0 |

注1) 青年部の年齢は40歳以下など高いようである。

2) 1つの会で地区別に複数の集団を持つ会もある。
月1回、5,000円程度の積みたてで行われている。

3) これは同窓会である。

会もあり、具体的な活動としては、唄と踊りの練習、青年に対しての教習、芸能大会出場者に対する激励、歌詞のプリント集の配布、太鼓、衣粧の保存等が行われている。さらに、これらの芸能は、総会等の会合の際、郷里との交流会の際、奄美まつりの際などに踊られている。

3) 頼母子講

模合集団が行う活動は模合、頼母子講などと呼ばれ、近年では貯金会などとも呼ばれている。現在、これを行っている会は4割程で、かつてほどではなく、また、行ったことがないという会も3割近くあり、沖縄ほど盛んではないようだ(第2-12表)。人数は10人台が約6割、20人台が約3割で、この程度の少人数であり、会の一部のメンバーの間で行われている。

4) 会員名簿の発行

内部集団の活動ではないが、会の活動を把える一要素として、会員名簿の発行状況をみておこう。名簿の発行は「10年以上で1回」発行するという会が半分以上であり「6～9年に1回」を加えると8割近くに達し、それほど頻繁に発行しているとは言えない(第2-13表)。これは住居移動がそれほど多くないこととも関連していよう。しかし、中には毎年、総会のたびに総会資料とともに発

第2-10表 内部集団の成立時期

| | 青年部 | 婦人部 | 壮年部 | 八月踊部 | 模合集団 | 居住地集団 | その他 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|------|------|-------|-----|----|
| 1946~50 | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| 51~55 | | 1 | | | 2 | 1 | | 4 |
| 56~60 | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | 5 |
| 61~65 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | 5 |
| 66~70 | 3 | 2 | 2 | | | | | 7 |
| 71~75 | 11 | 7 | 3 | 2 | 2 | | | 25 |
| 76~80 | 4 | 6 | 1 | 2 | | | | 13 |
| 81~85 | 6 | 6 | 1 | | | 1 | | 14 |
| 86~ | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 計 | 28 | 29 | 9 | 6 | 5 | 3 | | 80 |
| 不 明 | 5 | 4 | 2 | 2 | 2 | | 1 | 16 |
| 総 計 | 33 | 33 | 11 | 8 | 7 | 3 | 1 | |

第2-11表 郷里の伝統芸能の保存活動

| 伝統芸能 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 八月踊り | 7 | 6 | 3 | 5 | 4 | 1 | 3 | 29 | 54.7 |
| 種下し ¹⁾ | | 2 | | | | | | 2 | 3.8 |
| 三味線 | 1 | | | | | | | 1 | 1.9 |
| 稲摺り踊り ^{1) 2)} | 1 | | | | | | | 1 | 1.9 |
| 島言葉 | 1 | | | | | | | 1 | 1.9 |
| 平瀬まんかい ³⁾ | | 1 | | | | | | 1 | 1.9 |
| 六調 ⁴⁾ | | 1 | | | | | | 1 | 1.9 |
| 棒踊り | | | | | | 1 | | 1 | 1.9 |
| なし | 5 | 1 | 5 | 3 | 3 | 1 | 3 | 21 | 39.6 |
| 回答した会の数 | 12 | 9 | 8 | 8 | 7 | 3 | 6 | 53 | 100.0 |
| 不 明 | 1 | | 1 | | | | | 2 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注1) 主に奄美大島で種まき後の完全発芽と五穀豊じょうを祈る祭りで、この日に餅貫踊り(むちもれおどり)が踊られる。

2) 稲摺り踊り(いにしりおどり)は沖縄から奄美に移入された騒ぎ唄であり、祝いの座の頂点で、各人思い思いに乱舞する踊りである。

3) 竜郷町秋名に伝わる豊作感謝と豊作祈願を目的とする祭りで同日早朝に行われるショッチョガマとともに無形民俗文化財に指定されている。

4) 六調(ルクチュー)と呼ばれる。奄美の騒ぎ歌で「薩摩六調子」が渡来したものとされる。

行する会もある。

3. 会の財政基盤

まず、会の財政規模をみると、50万円未満が64%と最も多く、100万円未満では90%以上となり、これ以上の規模の会もあるが、大部分は100万円未満である(第2-14表)。

会の収入は会費または寄付によるが、寄付と言ってもそのほとんどは会員からのものであり、会を支える母体が会員であることには、さほど違いはない。た

だ、会費は一律であるのに対し寄付は会員自らが自分で決めるものであり、その額にはばのある点の主なちがいだと言えよう。

アンケートによれば、寄付のみの会の方が多く(64%)、会費を徴収している会は36%と少ない(第2-15表)。会費制の会での会費の額は2000円が最も多かった。しかし、会費制の会が寄付をとらないわけではなく、ほとんどの会で寄付も受付けている。そこで、会費を徴収している会におけ

第2-12表 頼母子講の状況

| 頼母子講 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|--------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 行なっている | 3 | 3 | 4 | 1 | 4 | 1 | 2 | 18 | 41.9 |
| かつて行なったことがある | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | 13 | 30.2 |
| 行なったことがない | 4 | 3 | 1 | 2 | 2 | | | 12 | 27.9 |
| 計 | 9 | 7 | 8 | 5 | 7 | 2 | 5 | 43 | 100.0 |
| 無回答 | 4 | 2 | 1 | 3 | | 1 | 1 | 12 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

表2-13 会員名簿の発行状況

| 発行回数 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|----------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 毎年 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 7 | 14.6 |
| 2～3年に1回 | | | | | | | 1 | 1 | 2.1 |
| 4～5年に1回 | 1 | | | 1 | | | | 2 | 4.2 |
| 6～9年に1回 | 3 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 12 | 25.0 |
| 10年以上に1回 | 4 | 7 | 5 | 2 | 4 | 1 | 3 | 26 | 54.2 |
| 計 | 11 | 8 | 8 | 6 | 6 | 3 | 6 | 48 | 100.0 |
| 不明 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | | | 7 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

第2-14表 会の財政規模

| 金額 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 50万円未満 | 3 | 7 | 6 | 6 | 6 | 3 | 3 | 34 | 64.2 |
| 50～100 | 7 | 2 | 3 | 1 | | | 1 | 14 | 26.4 |
| 100～150 | 1 | | | | 1 | | | 2 | 3.8 |
| 150～200 | 1 | | | | | | | 1 | 1.9 |
| 200万円以上 | | | | | | | 2 | 2 | 3.8 |
| 計 | 12 | 9 | 9 | 7 | 7 | 3 | 6 | 53 | 100.0 |
| 不明 | 1 | | | 1 | | | | 2 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

る会費と寄付との比率をみると、会費の方が多い会は寄付の方が多い会の半分にすぎず、会費制の会であっても寄付への依存度が高いことになる。また、会費制の会における会費の徴収率をみると、90%以上の会もかなりあるが、50～60%しか徴収していない会も4割近くあり、会費と言えども、必ずしもきちんと徴収されているわけでもない。総じて、会の財政は会員の寄付という形態に大きく依存

していると言ったことができよう。

そこで、この寄付の実態についてもう少し検討してみよう。今、手下に資料のある2つの会の例を示そう。竜郷町の嘉渡郷友会の「昭和62年度敬老会、八月踊寄付者御芳名」¹²⁾を整理すると、最高額は1万5千円で1名、1万円が7名、6千円2名、5千円28名、3千円38名、2千円8名となり合計84名で36万7千円を集めている¹³⁾。名瀬市に居住する全出身者は約120名とみられているので、寄付を行った者の比率は70%となる。

もう1つ、同じく竜郷町の戸口郷友会の「八月踊り寄付金名簿」¹⁴⁾を整理すると、2万円4名、1万5千円3名、1万2千円1名、1万円18名、8千円1名、5千円76名、3千円74名、2千円1名となり、合計178名で929,000円を集めている。名瀬市に居住する戸口からの全出郷者は275世帯

第2-15表 会費の徴収状況

| 徴収状況 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|-------|---|---|---|---|---|---|---------|-------|
| 徴収していない | 11 | 9 | 4 | 3 | 4 | 1 | 3 | 35 | 63.6 |
| 徴収している | 2 | | 5 | 5 | 3 | 2 | 3 | 20 | 36.4 |
| 会費の金額 | 3000円 | | | 1 | | | | 1 | 5.9 |
| | 2500 | | | 1 | | | 1 | 2 | 11.8 |
| | 2000 | 1 | | 3 | 1 | 2 | 1 | 8 | 47.1 |
| | 1000 | | | 1 | 3 | | 1 | 5 | 29.4 |
| | 200 | | 1 | | | | | 1 | 5.9 |
| | 不明 | 1 | | 1 | | | | 17 3 | 100.0 |

なので、寄付者の割合

は約65%となる。

以上の例から言える

ことは、1) 規模こそ

ちがうものの、いずれ

の会も寄付の額にはば

があり、各自の力に

じてこれに対応してお

り、現実社会の実態に

対応した一定の合理性を持っているのではないかということ、2) 必ずしも全員が寄付を行うわけではなく、寄付をする者は全出郷者の6~7割程度で、事実上も強制ではなく、一定の柔軟性が保たれていること。3) とは言うものの、寄付をした者はその額を含めて会員の間に公表されるので、このことが一定の心理的作用を及ぼすであろうということ、などである。いずれにせよ、郷友会の財政基盤は、会費制の会をも含めて、以上のような姿が一般的であると言える。

第3章 会員の居住・職業、郷里との関係

第1節 居住と職業

1. 集住傾向と移動

会員の大部分は、名瀬市の市街地部分すなわち、三方郡を除く旧名瀬市の部分に居住しており、このことだけで集中居住していると言えなくもないが、個別の郷友会別にみて、とくに集中が著しい例は、C.B.D.¹⁵⁾の東部に隣接する住宅地区伊豆部町に、会員の68%が居住する喜瀬郷友会のケース、C.B.D.の北部に隣接する金久町に会員の62%が居住する大金久郷友会のケースなどがあげられる¹⁶⁾。

一般に、各郷友会とも集中居住する場所はそれほどちがってはおらず、以上の例でみた伊豆部町や金久町などC.B.D.に隣接する地区で顕著な傾向がある¹⁷⁾。また、名瀬市域の中で自集落の方向、すなわち自集落に近い部分に、交通や道路の関係で多くの人が居住することもあり、小俣町周辺に戸口郷友会員が多く居住するケースがこれに相当しよう。

ただ、会員の居住状況に対する各会長の回答の中には「市内全域に居住している」(国直)、「各地区に点在している」(西仲間)、「市内バラバラです」(大和浜)などの答もあり、また、各会における会員の居住地を町別に細かく見た場合には、いくつかの町に分散するケースも少なくないので、会によるちがいもあり、単純に集中居住傾向ばかりが強いとも言えない。

居住地の移動については、近年、居住を移動する者は各会ともそれほど多くはなく、年間の移動傾向を会毎にみると、ほとんど移動者がいないという会が3割あり、移動者がいるという会でも、会員の5%以下であるという会が8割以上と大部分を占める(第3-1表)。しかし、少ないながら

第3-1表 年間居住地移動者の割合

| 割 合 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| なし又はほとんどなし | 2 | 2 | 3 | 4 | 1 | | 4 | 16 | 32.7 |
| 1～2% | 4 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 13 | 26.5 |
| 3～5 | 3 | 4 | | 1 | 3 | | | 11 | 22.4 |
| 6～10 | 2 | | 2 | 1 | 2 | 1 | | 8 | 16.3 |
| 11～15 | | | 1 | | | | | 1 | 2.0 |
| 計 | 11 | 8 | 8 | 7 | 7 | 2 | | 49 | 100.0 |
| 不 明 | 2 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | 6 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

第3-2表 移住者の移動の方向

| 移動の方向 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------|---|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 市街地内部 | 3 | 1 | 5 | 3 | 3 | 1 | | 16 | 30.2 |
| 周辺郊外 | 1 | | | 1 | 1 | | | 3 | 5.7 |
| 郊外住宅地 | 4 | 6 | | 1 | 2 | 1 | | 14 | 26.4 |
| 郷里を含む郡内 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 8 | 15.1 |
| 鹿児島市などの県内 | 2 | 1 | | 4 | | | | 7 | 13.2 |
| 関西関東などの遠隔地 | 1 | | | 3 | 1 | | | 5 | 9.4 |
| | | | | | | | | 53 | 100.0 |
| 無 記 入 | 4 | 2 | 3 | 2 | 0 | 1 | 6 | 18 | |

も居住地を変える者もいるので、これらの人々の移動方向をみると、「市街地内部」(30.2%)と新たな住宅建設が進められている「郊外住宅地」(26.4%)への移動が多くなっている(第3-2表)。

2. 職業

郷友会の研究において、その内部における会員間の同職性が一般に指摘されているが、名瀬の郷友会の場合も、紬卓越の会とサラリーマン卓越の会という大きく2つの傾向があるようだ(第3-3表)。具体的な例をあげると、会員の中で紬関係の仕事に従事する者が多い会には、土盛(80/90世帯)、大勝(80/132世帯)、国直(100/158世帯)、大棚(200/250世帯)などがあり、又、サラリーマン卓越の会としては、嘉瀬(124/162世帯)、赤木名(240/300世帯)などがあげられる。このほか、須古の会員には商業に従事する者が多い。また、上嘉鉄の会員は、現在は3軒程に少なくなってしまったが、かつては「豆腐製造業が多かった」と言われる¹⁸⁾。

第2節 会と郷里との関係

ここでは、会と郷里とのかかわりを、1)郷里の行事に会員が出かけてゆくもの、2)会の行事に郷里の人を呼んで行うもの、3)郷里に対する会からの援助や寄付、4)会員の帰村の4つの側面から述べよう。

第3-3表 各会の職業上の特色

| 会員に多い仕事の種類 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|-------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 紬 | 5 | 4 | 5 | 1 | 4 | | 1 | 20 | 42.6 |
| サラリーマン | 6 | 3 | 1 | 3 | 1 | | | 14 | 29.8 |
| 自営業 ¹⁾ | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 4 | 8.5 |
| 建設・大工 | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 | 6.4 |
| 商業 | | | | | | 1 | | 1 | 2.1 |
| 混合 ²⁾ | 1 | | | | | | 4 | 5 | 10.6 |
| 計 | 12 | 8 | 7 | 5 | 6 | 3 | 6 | 47 | 100.0 |
| 不明 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | | | 8 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注1) 紬, 建設・大工, 商業なども自営業と言えるが, ここではアンケートの回答のままに整理した。

2) 「片寄りが無い」とか「バラバラである」とするものをここに含めた。

第3-4表 郷里の行事への参加状況

| 行事(開催月) | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 参加する会の比率(%) |
|-------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------------|
| 敬老会(7~10) | 9 | 6 | 6 | 7 | 4 | 1 | 1 | 34 | 63.0 |
| 相撲大会(9~11) | 4 | 5 | 7 | 3 | 4 | 2 | | 25 | 46.3 |
| 八月踊り(8~10) | 4 | 2 | 7 | 7 | 2 | | 1 | 23 | 42.6 |
| 十五夜祭り(8~10) | 3 | 3 | 2 | 7 | 4 | 1 | | 20 | 37.0 |
| 豊年祭(9~10) | 3 | 2 | 2 | 4 | 5 | 3 | | 19 | 35.2 |
| 種下し(9~11) | 6 | 7 | | | | | | 13 | 24.1 |
| 運動会(7~11) | 4 | 1 | 2 | 3 | 3 | | | 13 | 24.1 |
| 盆踊り(7~9) | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 | 1 | | 11 | 20.4 |
| 舟漕ぎ競争(5~8) | 3 | | 3 | | 1 | | 1 | 8 | 14.8 |
| 浜下り(5~6) | 5 | 1 | | 1 | | | 1 | 8 | 14.8 |
| その他 ¹⁾ | | 1 | | | | | 2 | 3 | 5.6 |
| 回答した会の数 | 12 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 54 | 100.0 |
| 不明 | 1 | | | | | | | 1 | |
| 総計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注1) その他は, 安木屋場の今井権限の祭り(10月), 及び与論の産業祭(12月), 海開き(3月)である。

1. 郷里の行事への参加

名瀬の郷友会員にとって郷里はそれほど遠くはないので, 会員と郷里の人との交流はかなり行われている。とくに, 会員が郷里の年中行事に出かけて行って交流することは, 会の活動の重要な柱の1つとさえ言うことができる。

会員が参加する郷里の行事には, 1) 敬老会, 2) 相撲大会, 3) 八月踊り, 4) 十五夜祭, 5) 豊年祭, 6) 種下し, 7) 運動会, 8) 盆踊り, などの順になっており, いずれも9月から10月頃の時期に行われるものが多い(第3-4表)。運動会を名瀬と郷里とで隔年に行う会もある(有良)。しかし, 母村が島外にある会の場合は, 一般に母村の行事への参加は少ない傾向もある。

2. 郷里の人を招いて行う会の行事

八月踊りや敬老会さらに運動会などは、郷里の人を呼んで行う会が少ない（第3-5表）。また、郷里との交流そのものを目的として行われるものに、懇親会（15）、ソフトボール大会（13）、バレーボール大会（4）などがある。なお、会員が郷里へ出かける場合や郷里の人が名瀬に来る場合のいずれも、バス一台を借りて移動するという形態が広く行われている。

第3-5表 郷里の人を招いて行う行事

| 行 事 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 招く会の比率(%) |
|----------|----|---|---|---|---|---|---|----|-----------|
| 八月踊り | 6 | 7 | 5 | 5 | 2 | 1 | | 26 | 48.1 |
| 敬老会 | 8 | 8 | 4 | 2 | 2 | | 1 | 25 | 46.3 |
| 運動会 | 6 | 2 | 2 | 1 | 3 | 1 | | 15 | 27.8 |
| 総会 | 1 | 5 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 11 | 20.4 |
| 奄美祭り | 1 | | 1 | | | | | 2 | 3.7 |
| バレーボール大会 | | | | 2 | | | | 2 | 3.7 |
| 忘年会 | | 1 | | | | | | 1 | 1.9 |
| レクリエーション | | | | 1 | | | | 1 | 1.9 |
| 回答した会の数 | 12 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 54 | 100.0 |
| 不 明 | 1 | | | | | | | 1 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

3. 郷里に対する会からの援助

郷里に対する会からの援助の大部分は、様々な機会に行われる寄付行為であり、これがなされた回数を整理すると、1) 公民館・生活館など集落の公共建築物の建設のための寄付、2) 前述の集落の諸行事への参加の際に会から行われる寄付、3) 小学校の何周年記念の行事に対する寄付、4) 顕彰碑等の建立のための寄付、5) 学校施設に対する寄付などの順に多い（第3-6表）。

第3-6表 郷里に対する援助

| 援 助 の 内 容 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|------------------------------------|----|----|----|---|---|---|---|----|-------|
| 公民館・生活館・児童館等への寄付 | 4 | 6 | 6 | 2 | 0 | 2 | 2 | 22 | 32.8 |
| 郷里の行事に対する寄付 (敬老会,十五夜祭,豊年祭,種下し等) | 2 | 6 | 4 | 3 | 4 | | | 19 | 28.4 |
| 小学校何周年記念行事への寄付 | | 3 | | | 4 | | 3 | 10 | 14.9 |
| 顕彰碑慰霊碑等建立のための寄付 | 3 | 1 | | | | | 1 | 5 | 7.5 |
| 学校の体育館・講堂等の設立・備品の寄付 | 2 | 1 | | 1 | | | | 4 | 6.0 |
| 神社改築のための寄付 | 1 | | 1 | | | | | 2 | 3.0 |
| 大火義援金 | | | | | 1 | | 1 | 2 | 3.0 |
| 本茶トンネルの寄付 | | 1 | | | | | | 1 | 1.5 |
| 中学生郡大会の援助 | | | | | | | 1 | 1 | 1.5 |
| 新町長来瀬歓祝会 | | | | | | | 1 | 1 | 1.5 |
| 計 | 12 | 18 | 11 | 6 | 9 | 2 | 9 | 67 | 100.0 |

また、今までになされた寄付の総額は100～150万円程度の会が最も多いが、中には500万円台という多い会もある(第3-7表)。

第3-7表 郷里に対する寄付の総額

| 金 額 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| なし | 1 | | 1 | | 2 | | | 4 | 10.3 |
| 50万円未満 | 4 | | | 1 | | | 2 | 7 | 30.8 |
| 50～100 | 2 | | | 2 | 1 | | | 5 | |
| 100～150 | 3 | 2 | 3 | 1 | 1 | | | 10 | |
| 150～200 | | 2 | 1 | 1 | 1 | | | 5 | 38.5 |
| 200～250 | | 2 | | | | 1 | | 3 | |
| 250～300 | | | | | | | | | |
| 300～350 | 2 | | | | | | | 2 | 5.1 |
| 350～400 | | | | | | | | | |
| 400～450 | | | 1 | | | | | 1 | |
| 450～500 | | | | | | | | | 2.6 |
| 500～550 | | | | | | | | | |
| 550～600 | | 1 | 1 | | | | | 2 | |
| 計 | 12 | 7 | 7 | 5 | 5 | 1 | 2 | 39 | 100.0 |
| 不 明 | 1 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 4 | 16 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

ただ、先にもみたように、郷里の人が郷友会の行事に参加する際や、会の総会の機会などに、郷里の集落から会に対して逆に寄付がなされることも一般に行われており、こうした意味では上述の2)の寄付はある程度相殺されるものとも考えられる。

4. 会員の帰村

会員の帰村については、半数以上の会で「なし」と

と答えており、帰村者がいる場合もその数は少ない(第3-8表)。また、将来、帰村を予定している者の有無についても、「老後の帰省希望者が5%くらいいる」という会(津名久, 大棚)もあったが、これら以外は「ない」、「うわさはあるがわからない」、「ないと思う」、「転勤族以外は少ない」などで、全体的には少ないようである。

第3-8表 これまでの帰村者

| 帰村者の比率 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|--------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| なし | 4 | 8 | 3 | 5 | 2 | 2 | 5 | 29 | 55.8 |
| 1～2% | 5 | 1 | 4 | 1 | | | | 11 | 21.2 |
| 3～5 | 3 | | 1 | | 4 | | | 8 | 15.4 |
| 6～10 | | | | 2 | | 1 | | 3 | 5.8 |
| 11～ | | | | | | | 1 | 1 | 1.9 |
| 計 | 12 | 9 | 8 | 8 | 6 | 3 | 6 | 52 | 100.0 |
| 不 明 | 1 | | 1 | | 1 | | | 3 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

以上、郷里との関係をみてきたが、名瀬の郷友会の特徴は、郷里が近いため双方の人の往来や交流がきわめて活発であり、また、同じ奄美文化地域内部にあるためか、年中行事などの活動が盛んで、郷里

の集落との協力や結びつきが非常に強く、ある意味では郷里の集落のなかば分村(分身)であるような感じさえする。この点は本土の郷友会はもちろん、沖縄の郷友会とも多少異なる点の1つではなかろうか。

第4章 郷友会の諸問題

2章及び3章では、名瀬市で活動する郷友会の実態把握に努めたが、本章では会がかかえる問題について、2～3検討してみよう。

第1節 会運営上の留意点

まず、会が直面している具体的な問題をみる前に、各会の会長氏達が会を運営していく上でとくに気を配ったり、留意している事柄を把握してみよう。これに対する回答は、次の3点にまとめられよう。1) 諸行事の成功—すなわちできるだけ多くの人の参加，できれば会員参加のための努力・工夫。2) とくに青年層を会の諸行事に参加させ，会を引き継いでもらうための工夫，3) その他，である。ひとつずつみてゆこう。

全員参加のためには次のような工夫がなされている。すなわち「全員が参加できるように運動会の種目を考える」こと，とくに「全員に賞品が行きわたるようにプログラムを決める」こと，「運動会でお楽しみ抽選会を行う」こと，「敬老会での記念品の贈呈」など，総じて運動会，敬老会等事業計画の内容の工夫により，多くの者が参加しやすい行事にしていくための工夫である。

第2の青年層対策では，「若い世代に楽しい会にする」ことや，「運動会や敬老会を青年部（および婦人部）主催にして責任をもたせ，参加を積極的なものにさせてゆくことなどが試みられていた。

第3のその他では，①とにかく親睦を定期的にはかること。②八月踊りの歌集の発行，③同窓会や居住地集団などを生かすこと，等であった。

第2節 若い世代（2・3世）への対策

この問題は会が当面している問題の1つであり，また，会長氏達も会を運営していく上で，この問題に対して様々な工夫や対策を取ることを余儀なくされている。それは，一般に都市部で生まれた2・3世¹⁹⁾は，郷友会活動に対する関心がうすいと言われており，このままでは会が消滅してしまうのではないかという危惧が抱かれているからである。

そこで，各会のこれに対する対策をみると，「特に何もしていない」と答えた会は全体の24%にすぎず，残りは青年を活動に参加させるための様々な努力を行っている（第4-1表）。その中で最も多く行われているのは，1) 球技大会の開催であり，以下，2) 情報を収集し会への勧誘をすること，3) 青年部活動の重視（具体的には，会の役職につけること，会の行事の運営をまかせること，活動資金の補助を行うことなど），4) 伝統芸能の保存活動の中に青年をまきこんでゆくこと，などが行われている。

第3節 会と選挙との関係

一般に，郷友会は選挙と少なからぬかわりを持っていると考えられており²⁰⁾，両者の関係の具

第4-1表 若い世代への対策

| 対 策 | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|--------------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 球技大会の開催 | 5 | 5 | 2 | 2 | 3 | | 2 | 19 | 38.0 |
| 情報収集と会への勧誘 ¹⁾ | 3 | 5 | 1 | 4 | 1 | 2 | | 16 | 32.0 |
| 青年部活動の重視 | 5 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 15 | 30.0 |
| 伝統芸能活動 | 3 | 3 | 1 | | 3 | 1 | | 11 | 22.0 |
| 2世会の結成 | 1 | | 1 | | 2 | | | 4 | 8.0 |
| 2・3世を伴う帰郷 | 1 | 1 | | | | | | 2 | 4.0 |
| その他 ²⁾ | | | | | | | 2 | 2 | 4.0 |
| 特に何もしていない | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | | 2 | 12 | 24.0 |
| 回答した会の数 | 11 | 9 | 7 | 7 | | 3 | 6 | 50 | 100.0 |
| 無 回 答 | 2 | | 2 | 1 | | | | 5 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |

注1) 郷里出身者が結婚した際に入会を勧めるという会もあった。

2) 「諸行事へのなかば強制的な参加勧誘」および「鹿児島県の会との交流」である。

第4-2表 会と選挙とのかかわり

| 選挙とのかかわり | K | T | N | S | Y | U | 他 | 計 | 割合(%) |
|---------------------------------|----|---|---|---|---|---|---|----|-------|
| 1 選挙にはかかわらないことを規約で決めている | 3 | 1 | | 3 | 1 | | 1 | 9 | 17.0 |
| 2 選挙にはかかわらないことをお互いの了解事項にしている | 5 | 4 | 3 | 4 | 5 | 3 | 4 | 28 | 52.8 |
| 3 話をしていない | 3 | 4 | 4 | 1 | 1 | | | 13 | 24.5 |
| 4 会員の中から立候補者が出たときは会として応援することがある | 1 | | 1 | | | | 1 | 3 | 5.7 |
| 計 | 12 | 9 | 8 | 8 | 7 | 3 | 6 | 53 | 100.0 |
| 不 明 | 1 | | 1 | | | | | 2 | |
| 総 計 | 13 | 9 | 9 | 8 | 7 | 3 | 6 | 55 | |
| 5 4と1又は2と3との二重記入 | 3 | | 3 | 2 | 4 | | 1 | 13 | 24.5 |

体的な分析も行われていて²¹⁾、筆者もこの点についてふれたこともある²²⁾。しかしながら、更に具体的な分析が必要であると思われるので、この点について考えてみたい。

まず、アンケートによれば「選挙にはかかわらない」としている会が7割近くあり、「この問題については話していない」を除くと、大部分の会で選挙にはかかわらないとしていることになる(第4-2表)。しかしながら、にもかかわらず「会員の中から候補者が出た場合には応援することがある」と答えた会が13(24.5%)もあり、ここに、この問題の単純ではない性格があらわれている。そこで、個別のより具体的な意見を聞いてみよう。この問題に関する諸意見は、大別すると3つの傾向に分けられるように思う。

その第1は、会としての選挙活動は行わないが、個人としては自由だということを強調する意見である。「個人としての応援は自由」である(嘉瀬)、「会としての名前は使わず個人として運動し

ています」(大棚),「自発的に」(すなわち個人として)応援している(井之川),「自主的に応援している」(名柄)などの意見がこれに相当しよう。

第2の意見は,この問題が郷友会に問題や困乱を持ち込んだことを強調した意見である。「会として選挙だけは絶対に介入しない。団結がみだれるから」(大勝),「両派に別れ,3年間程総会も開けなかった時期がある」(安木屋場),「選挙のため郷友会が活動に影響されるなどもっての外だとかねがねことあるごとに強調している」(同)などの意見がこれである。

第3の意見は,こうした状況にあるためか,選挙とのいっさいのかかわりを否定する意見である。「選挙とはいっさいかかわらない」(平),「会としては選挙にいっさいかかわらないことを厳に遵守している」(有良),などの意見であり,また,「会員の中から立候補者が出た場合は,会として応援することがある」という,筆者が選択事項の1つとして提出した項目にわざわざ×印をつけこういうことも全くしないことを示した会(中勝,大勝)も,同様の意見とみてよいだろう。

郷友会をめぐる現実,第2の意見で指摘されているような問題が常におこりうる状況にあるものと思われ²⁴⁾,「会として選挙にかかわらない」としても,第1の意見にあるように,個人としては政治活動は自由であり,この「個人として」ということが実際にはどういう行動になるのか微妙であるが故に,第3のような意見もでてくるのであろう。沖縄の例で報告されているように,「後援会の会長を郷友会会長が兼務することは,まずありえない」²⁵⁾という程度で,この問題が整理されるようなことではないだろう。郷友会が,疑似地縁結合とも呼ばれる人間結合を主な内容とする組織であり,また,現代日本の選挙というものが,他人への依頼行為によって行われる側面が存在する限り²⁵⁾,この問題のすっきりした解決はなし得ないのではなかろうか。逆に言えば,この問題はその分析を通して,我々がそれぞれの社会の特質を指摘・把握しうるすぐれた素材を提供している問題であるということもできよう。

そして,ひとつだけ確認すべき大切なことは,会員の多くが選挙よりも会の組織を優位に置いているということであり,これを逆転させてはならないということである。

第5章 郷友会の今日的意義—結びにかえて—

戦前にそのルーツを持つとは言え,戦後の占領下の経済的苦況の中で,周辺農村部からの出郷者によって形成された名瀬の郷友会も,今日既に40年近くを経過し,その後に形成された会においても形成時とは変化した状況も生まれてきている。そこで,現代社会の中で,今日郷友会が存在する意義がどこにあるのかということを最後に考察して,結びにかえたい。

郷友会の現代的意義に関する各会長の諸意見を整理すると,次の(A)～(D)の4つになると思われる。(A)は親睦,(B)は郷土愛,(C)は日々の生活の活力源,(D)は伝統文化や遺産の継承の4つであり,これらの点を現代的意義として主張した郷友会数は,それぞれ19, 13, 6, 4の数であった。以下,これらについて,多少詳しくふれてみよう。

(A)は、1)親睦のほか、同郷人との連絡(7)²⁶⁾、2)慶弔時の協力をはじめとした相互扶助(6)、3)高齢者の交流や慰安(6)、などに意義を認める意見を含み、これらは、郷友会を「親戚・縁者の集合体と変わらない」と考えたときに納得できる事柄であるようにも思う。

(B)は、1)郷土愛(6)、2)郷里のほこり、同郷者としてほこり(2)、3)村おこし、町おこしの原動力となっていること(2)、4)会員と郷里の人との交流や連絡の強化(3)、などの内容や意見をまとめたもので、自らの存在感を郷里とのかかわりで捉えようとする姿勢が感じられ、アイデンティティーの確立の動きとも言えるように思う。

(C)は、会の活動が日々の生活の活力源になっているというもので、とくに戦前派にとって会は「心の寄り処」であり、「心のなごみ」になるとするものであり、また(D)は、伝統文化が見捨てられ、すたれてゆく中で、八月踊りなど会がその保存・継承を行っている意義の指摘である。

以上4点にまとめた会の意義を受けて、「永く会が続き発展することを願っている」とか「永久に存続させたいと思う」など、会に対しての願望を吐露した意見(E)(2)もあった。

次に、会の今日的意義の問いに対し、問題点を同時に指摘した声もあったので、これについて述べておきたい。これは、本稿でも既に扱った若い世代への会の継承の問題(F)(12)である。すなわち、「青年の参加が少ない」、「若い世代にも引きついで行きたいと頑張っていますが、50代以上しか集まらない」、「2～3世に熱がない」、「2～3世の関心がうすい」など、2世代以降を心配する意見であり、中には、2世3世がふえて行けば、会は「自然消滅となるであろう」とはっきり述べる会長氏さえ存在する。その他「思いやりの心がうすれている」などの意見もここに含めてよいだろう。

このほか、「会のあり方に不満であり、役員の言うまま引きずられて行く様では進歩がない」(G)や「現在は自家用車で35分で通勤・通学ができ、当初の様な会の団結に欠け、盛り上がり欠けています」(H)など、別の問題を指摘する意見もあった。

最後に、この問題に関して代表的と思われる2つの会の意見を引用して、結びとしたい。

「生地を離れ生活している者が抱く郷愛心(郷愁?)は人間社会の中で皆んなが持つ気持だと思っています。(中略)表現はよくできませんが、会員同志が互助の精神で、島を語り合える唯一の心の寄りどころともなっている郷友会の存在価値は大きいと思います」(嘉渡)。

「一世代の者としては自由に遠慮なく笠利方言で話し合い、時に踊りの場で又運動会で忘年会で再会を喜ぶことが出来るのは会組織があればこそで、心のなごみになると思っている。然し、2世代以降は方言が話せず、八月踊りが出来ず、学校も名瀬で出ている関係上、同郷意識、会意識も薄くなって行くのではなかろうか。後、十数年後には八月踊りも地元から応援を求めねば出来なくなる時代が来るのではないかと恐れている」(大笠利)。

謝 辞

本研究を進めるに当たり、アンケートに回答して下さった名瀬在住各郷友会の会長諸氏、直接の面会で様々な教示や情報提供をして下さった多くの個別郷友会の会長諸氏及びいくつかの郷友会連合の会長諸氏に対し、心から感謝の意を表します。また、「春日荘」の松元御夫妻からも、筆者の宿泊の際、直接、間接の様々な御支援、御協力を受けた。厚く感謝致します。

注

- 1) 例えば竹永三男(1988): 同郷会の成立—1880~1890年代における同郷人結合の形成, 高井悌三郎先生喜寿記念事業会編: 歴史学と考古学, 真陽社, pp.665-688。園田茂人(1992): 日本的く疑似地縁結合>の現在, 中央大学文学部紀要(社会学科)第2号, pp.1~50。ほか多数。
- 2) 森川眞規雄(1991): On Some Characteristics of the Hong Kong Immigrants in Toronto, 評論・社会科学, 42号, pp.1~14。拙稿(1992): イギリスにおけるアラブ人の Segregation, アジア・アフリカ研究32-4, pp.2~18。など。
- 3) 疑似地縁結合の1つという捉え方もあるが、ここでは深くは立ち入らず、検討課題としておきたい。
- 4) 石原昌家(1986): 『郷友会社会—都市のなかのムラ—』ひるぎ社, 172頁, など。
- 5) 田島忠篤(1982): 村落共同体と郷愛会の機能, 南島史学会編『南島—その歴史と文化—』4号, 第一書房, pp.205~225。
- 6) 小島清志(1983): 郷愛会組織と母村の交渉—加計呂麻島西阿室の事例—, 南島史学21・22号, pp.46~73。
- 7) 川崎澄雄(1988): 鹿児島市における奄美郷友会の研究—笠利・沖永良部・与論の郷友会の比較研究—, 鹿児島経済大学社会学部, 『南西日本の社会と文化』, pp.61~115。など。
- 8) 拙稿(1991): 関西における奄美郷友会の実態, 鹿児島大学教育学部研究紀要43号, pp.1~19。
- 9) 15のうち成立年代がわかっているのは9つで、それらは、徳之島亀津の1916(T5)年が最も古く、以下1920, 22, 26, 29, 33, 35, 41年で、とくに集中した時期はみられない。
- 10) 笠利連合会長楠田氏による。
- 11) 例えば、第25回奄美まつりの「八月踊り」参加団体22のうちの15は郷友会であり、「舟こぎ競争」参加団体24のうち14が郷友会(またはその青年部)であった。
- 12) 八月踊りは昭和62年10月17日(土)、新月城にて行われた総会(午後4時から)、敬老会(5時から)に引き続き、午後7時30分から「かねく公園」で行われた。なお、この資料は嘉渡郷友会元会長の松元勇喜氏の御好意により入手したものである。
- 13) このほか、嘉渡部落から5万円の寄付がある。
- 14) 名瀬在住戸口郷友会、「昭和63年度総会資料」による。戸口郷友会の高橋操氏の御好意により、この資料を入手した。
- 15) 諸官庁が集中する幸町と永田町、商業地区の末広町、港町、それに屋仁川通りなどの金久町の一部を、ここではC.B.D.と捉えておく。
- 16) 喜界町上嘉鉄の場合も、伊豆部町に会員の46%が集中居住している。
- 17) 集中傾向のみられる19の会のうち12の集中居住地区が、伊豆部町(7)か金久町(5)である。
- 18) 「豆腐製造業は昔は朝3時頃からの手作業だから、キヤーチュウでなければならない」ともいわれ、喜界の人は働き者、努力家だと言われたと言う。昭和26年(1951)会の発足当時から、30年代くらいまでは多かった。
- 19) 同じく若い世代であっても、都市部で生まれた2・3世と郷里で生まれ、若くして都市部へ移住してきた者との間にある意識のちがいを、石原は指摘している。前掲注4), pp.165~168。
- 20) 例えば川崎澄雄(1993): 鹿児島県奄美群島出身者の郷友会について, 「南日本文化研究所叢書」18号, pp.45~49。
- 21) 前掲注4), pp.101~157。

- 22) 前掲注8), 拙稿(投稿中): 甑島の過疎化と出郷者の集団形成再考, 鹿児島大学教育学部研究紀要46。
- 23) 前掲注4), pp.152。
- 24) 1970年代には活動し, その連合体の名瀬在住宇検村人会なども立派な会員名簿を作成していた宇検村の各郷友会が, 筆者の調査時点では「選挙の関係で解体状態になっている」と言われていたのも, この一例と言えよう。
- 25) 選挙の投票自体も, 各人が自分の考えで自主的に判断して行うという理念やタテマエと, 必ずしもそうはなっていないという現実との間にズレがあるという点にも注意を向けるべきであろう。
- 26) 括弧内の数字は, ほぼ同じ意見を述べた郷友会数を示す。